

令和7年度郡教育研究実践論文の目的

教育の基本的な課題をふまえた確かな教育理論のもと、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な児童・生徒の成長や指導の充実を図った実践を研究論文としてまとめることで自らの教職員の専門性や指導力を高める。

により作成された実践論文に揖斐郡内の教職員が学び合うことで、揖斐郡教育の充実を図る。

【令和7年度 揖斐郡教育研究実践論文の審査基準】

観点	今日的課題	教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
観点	研究の価値	願う児童生徒の姿、指導の意図、指導方法が明確で、日常的な指導・改善に資することができるか。
観点	指導・改善	教育実践のための理論と実践が機能的に結びつき、児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
観点	論述	研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、明確な表記で、分かりやすい説得力のある論文であるか。

4 対象者 令和7年度郡教育研究実践論文執筆者研修会への参加を希望した先生方

5 研修内容

- (1) 令和6年度の郡教育研究実践論文の審査から（学ぶべきことと課題）（中島校長先生）
- (2) 実践論文作成の視点である観点①～⑤についての研修
 - 教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向の明確化について（河村校長先生）
 - 願う児童生徒の姿、指導の意図、指導方法が明確で、日常的な指導・改善に資する汎用性のある研究実践について（山田校長先生）
 - 教育実践のための理論と実践が機能的に結びつき、児童生徒の成長や変容の姿が根拠にもとづき明確に示された研究実践について（所校長先生）
 - 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、明確な表記で、分かりやすい説得力のある論文について（香田校長先生）
 - 実践論文の論述の仕方（具体的な記述、論理の一貫性、語句の概念規定、記述等）と実践論文作成のスケジュールについて（郡センター主幹 中村）

講話で研修部長の先生からお聞きした内容を

郡教育研究実践論文執筆の際に活用してください。

令和7年度 揖斐郡教育研究実践論文事業 実施要項(案)

岐阜大学教育学部同窓会の論文募集要項では、「教育実践研究論文事業」、「教育実践助成事業」となっており、揖斐郡では「教育研究実践論文」として従来より事業を進めている。令和7年度揖斐郡では「確かな理論と見通し及び具体的な方策をもって実践を進めていってほしい」との願いのもと、「揖斐郡教育研究実践論文」として令和7年度論文事業を進めていく。

様式は岐大論文の募集要項に従い、揖斐郡の教育研究実践論文も作成するものとする。

※本要項は2月に送付する要項は令和6年度の岐大論文の要項に基づいて作成したものです。令和7年度の正式な要項が6月に出ますのでそれを受けて一部変更になる場合もありますが、大筋において大きな変更点はないと思われますので、(案)として送付します。参考にしていただいて論文の執筆を進めてください。

- 一次応募でのテーマ・教科は、6月の正式応募や11月の実践論文提出の際に変更することが可能です。
- 2月の一次募集の際に応募がなくとも、6月の正式応募で新たに応募することができます。

1 主催 揖斐郡教育会 (岐阜大学教育学部同窓会の論文募集事業も兼ねる)
郡の優秀論文を岐大論文に応募する

2 目的 ①教育の基本的な課題をふまえた確かな教育理論のもと、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な児童・生徒の成長や指導の充実を図った実践を研究論文としてまとめることで自らの教職員の専門性や指導力を高める。
②①により作成された実践論文に揖斐郡内の教職員が学び合うことで、揖斐郡教育の充実を図る。

3 募集論文の内容

<1>教科領域について

- 岐大論文の領域分類に従い、次の①～⑳の領域のいずれかを領域名とする。
 - その他の場合はその他（ICT活用）のように取り組んだ内容を記載する
 - ⑲の管理経営については管理職対象とする。
- (1) 教科指導（①国語、②社会、③算数・数学、④理科、⑤生活、⑥音楽、⑦図工・美術、⑧技術家庭、⑨保健体育、⑩外国語）
- (2) ⑪道徳、⑫特別活動、⑬総合的な学習、⑭外国語活動、⑮学級経営、⑯生徒指導、⑰特別支援、⑱健康安全、⑲管理経営、⑳その他（ICT活用、教科横断的な指導、カリキュラム・マネジメント、研究推進等）
- (3) 今日の課題をふまえた継続的・累積的な研究実践論文であり、未発表のものであること。
- (3) 校内研究、郡教育研究会、校内運営組織によるまとめは除く。

4 執筆要領

揖斐郡教育実践論文については、下記の岐大論文募集要項の形式に従って作成する。（形式の詳細については別紙「論文のレイアウトに関する説明資料を参照」

【揖斐郡教育研究実践論文執筆要領】

- 1 応募資格 揖斐郡内の公立小・中学校、義務教育学校に勤務する教職員(含講師)
- 2 応募方法 郡教育研究実践論文は学校を通じて、揖斐郡教育研修センター担当に提出する。
- 3 執筆要領 ※詳細は別紙書式にて確認する。
 - ① 論文の書き方
 - 文字は常用漢字。現代かなづかいを使用する。
 - 学校教育の課題をふまえ、願い・問い（仮説）→実践→検証（分析・解釈）→改善（今後の方向）という取り組みの過程をふまえて記述する。

- ② 郡教育研究実践論文の提出 WORD版のデジタルデータで応募票とともに本編（A4・6枚）を提出する。 ※PDF化しないこと
審査会資料及び郡教育研究実践論文集作成の際には、モノクロで印刷されるため、モノクロでもはっきりわかるように特に図や表は十分視認できるようにコントラストに留意する。
- ③ 本文の様式（詳細は別紙レイアウト参照）
- 文章の作成はワードを使用し、フォントサイズは10.5・MS明朝（見出しはMSゴシック）。
 - A4判6ページ（22字程度×43行～50行×2段 横書き）余白：上下左右各25mm程度
 - 1ページ目の冒頭に研究主題・（副主題）・所属・職名・氏名を記載する（46文字程度×5行以内×1段）。上下に二重野線を引く。
 - 1ページ目に「概要」（46字程度×10行）を記載する。（郡教育研究実践論文集には記載された「概要」をそのまま論文集に掲載する）
 - 概要のうち、キーワードは太字で記載する。
- ④ 図・表・写真の使用について
- 図とは、絵・写真・グラフを用いたりした不定形のものを指す。
 - 表とは、文字・数字・記号・縦横の野線だけで構成されるものを指す。
 - 図と表は、内容が読み取れる程度の縮小に留める。
 - 図と表は必ず区別し、図1・表1からそれぞれで通し番号を論文全体にわたってつける。
 - 図と表には、それぞれの通し番号と共に内容を簡潔に表現した見出しをつける。
 - 図や表を挿入する際は、必ず本文内で言及し、図や表だけが突然示されることのないようにする。
 - 引用であれば、必ず図や表の下部に出典を明示する。
- ⑤ 添付資料
本編以外の資料は添付しない。
- ⑥ 参考文献等
参考文献等がある場合は、論文の最後に年代順で一括掲載する。
- ⑦ その他
写真等は児童生徒が特定されないよう留意する。

※実践論文の作成にあたってはこの募集要項を確認し、必ず様式に従って作成してください。

（提出にあたっては様式に沿って書かれているかの確認をお願いします。）

郡教育実践論文の審査においては様式に従って作成されているかをまずチェックしてから、論文の内容審査を行います。要項に記載された様式を守らず記載されていると審査対象から外れてしまいますので、必ず論文執筆前に要項・様式を十分確認してください。

※論文作成の際の図・表・写真はリサイズを必ず行ってください。

写真を本編に添付する場合には画像ソフトでサイズを縮小した上で、貼り付けること

5 応募資格 揖斐郡の小・中学校に勤務する教職員(含講師)であること。

6 締め切り 令和7年11月19日（水）

7 提出先 揖斐郡教育研修センター

※出品票と実践論文本編（A4・6ページ分）を揖斐郡教育研修センターまでデジタルデータで送付してください。

どちらもワードで作成してください。（本年度より岐大論文要項で指定されたため）

8 審査方法

(1) 審査委員会で1次審査と2次審査を行い、優秀な論文を選出する。

(2) 審査委員会の構成

審査委員長（郡小中校長会研修部長（県教研評議員））

審査委員（揖斐郡教育研修センター運営委員等及び教科ごとに委嘱した委員）

(3) 第1次審査（令和7年11月下旬～12月はじめ）入選候補作品の選出

(4) 第2次審査（令和7年12月上旬）入選論文の決定と、「優秀賞」候補作の選出

【令和7年度 揖斐郡教育研究実践論文の審査基準】

観点①今日的課題	◎教育の今日的な課題を踏まえ、 <u>解決の方向が明確</u> になっているか。
観点②研究の価値	◎ <u>願う児童生徒の姿、指導の意図、指導方法が明確</u> で、日常的な指導・改善に資することができるか。
観点③指導・改善	◎教育実践のための <u>理論と実践が機能的に結びつき、児童生徒の成長や変容の姿がよく表れている</u> か。
観点④論述	◎研究及び実践内容に <u>創造性・妥当性が見られ、明確な表記で、分かりやすい説得力のある論文</u> であるか。

※令和7年度の揖斐郡教育実践論文の審査観点を整理し、すっきりさせてある。この審査基準は論文執筆の際の視点にもなるので、参考にするとともに、作成過程での評価に活用してください。

※3月12日の「令和7年度 揖斐郡教育研究実践論文執筆者研修の講話」もこの視点から行う。

9 備 考

- (1) 過去に入選3回以上の実績があり、本年度応募した実践論文においても特に優れていると認められる者については、「特別賞」として顕彰する。
- (2) 実践論文受賞者の表彰及び優秀作品による研究発表（プレゼン発表およびシンポジウム発表）令和8年1月21日の揖斐郡教育会研修総会場で、リアルタイムオンライン配信で実施する。
- (3) 応募者氏名および研究主題名等は、一覧表を作成して掲載し、メールにて各校に発表する。
- (4) 優秀・入選・特別賞論文については、後日「教育研究実践論文集」にまとめて各学校等へ配付するとともに郡教育研修センターホームページの「郡教育研究実践論文ライブラリー」にアップする。
- (5) 優秀論文のうち数点は、岐阜大学同窓会研究論文募集に応募する。（二次審査で決定）
- (6) 論文の提出にあたっては応募票と論文本編のデジタルデータのみ（ワードで作成）。紙媒体での提出は必要としない。
- (7) 令和7年度も、揖斐郡実践論文の審査結果の公表（各校への連絡）は二次審査終了後の事務処理を経て、揖斐郡教育会研修総会での発表準備が行いやすいよう12月15日頃までに行う。（総会リーフレットの発送をもって正式な結果発表とする）

10 岐大論文への応募に関わって

（※岐大論文の募集要項が変更になった場合にはそれに合わせて変更になります）

- (1) 郡の論文審査で優秀作となり、岐大論文に応募され、「最優秀賞」及び「優秀賞」として入賞した論文は応募原稿のまま論文集に掲載される。また、「優良賞」及び「新人賞」の論文は、論文の冒頭に掲載された概要が、論文集に掲載される。
（※岐大論文の新人賞の対象となるのは新採6年以内の教職員）
- (2) 各校に令和6年度の揖斐郡教育研究実践論文集が配付してある。また郡教育研修センターのホームページに令和3～6年度の郡教育研究実践論文ライブラリーを掲載してあるので、令和6年度の実践論文の執筆の参考とする。また毎年の「岐阜県小中学校教育実践研修 入賞論文集」が各校に岐阜大学教育学部同窓会より配付されているので、執筆の際に参考にする。
- (3) 岐大論文に応募し、最優秀賞・優秀賞になった論文は応募原稿のまま岐大論文集に掲載される。

- 令和8年1月の郡教育会研修総会の際に配付するリーフレットには執筆していただいた先生方の氏名、テーマ等が掲載されます。また実践論文集及び郡センターホームページの実践論文に実践論文を掲載（優秀賞は論文本編、入選・佳作は概要）を掲載します。
- 11月の実践論文の提出の際の応募票に承諾欄を設け、掲載確認をとりますが、掲載を原則としますので、その旨ご理解いただき、論文の作成をお願いします。

R7 揖斐郡教育研究実践論文レイアウトに関する説明

※本年度（令和7年度）の揖斐郡教育研究実践論文作成の様式は岐大論文の様式に従っています。この様式を確認いただき、かならずこの説明資料に従い、令和7年度の揖斐郡教育実践論文を作成してください。

本文：MS明朝 10.5ポイント 見出し：MSゴシック
余白 上下左右 各25ミリ程度 概要以下は2段組

1 ページ目

＜教科・領域等の名称＞ (MSゴシック太字 11ポイント・左寄せ)
表 題 (MSゴシック 12ポイント・1～2行 センタリング)
～ サブタイトル ～ (MSゴシック 10ポイント・センタリング)
〇〇町立〇〇学校 教諭 △△ △△ (MSゴシック 11ポイント・右寄せ)

※上下に二重罫線を引くこと、全5行以内で記載すること

概 要 概要の文字はゴシックで

枠線で囲むこと
46字×10行

※論文のキーワードとなる言葉は太字にする。
MS明朝 10.5ポイント

キーワードの太字化ができていないかを必ず確認して、提出してください。

1 ページ目の本文は22字×28行
程度 2段で記載

※表題・概要・本文合わせて1ページ目は最大50行以内に収める
小見出しはMSゴシック

願い・問い（仮説）→実践→検証（分析・解釈）→改善（今後の方向）という取組の過程を踏まえて記述する

・実践内容では実践事例とそれに対する分析・解釈を述べる。
・成果と課題は児童生徒の具体的な姿（検証データ等）から述べる。

この様式は令和7年度の正式な要項です。論文の記載を始める前に確認していただき、実践論文提出の際にもこの要項に従った記載ができていないかの確認をお願いします

＜論文の書き方＞

- 文字は常用漢字、現代仮名づかいを使用する。
- ＜原稿の印刷＞
- モノクロでも図や表が十分視認できるよう配慮する。
- 岐大論文の要項に従い論文を作成するソフトがWORDに指定する。
- 本文のフォントが10.5ポイントに指定、論述の章立てについての指針が示されているのでそれに従い、論文の作成を行う

2 ページ～6 ページ

本文は22字程度×43行～50行
×2段で記載

ただし6ページ目の最後の22字×
11行は空白にすること

本文 MS明朝 10.5ポイント
見出し MSゴシック

図・表・写真の掲載の仕方の詳細
については、令和7年度揖斐郡教
育研究実践論文募集要項で確認
する。

図や表は、全6頁に6点程度。
図や表は補足資料であるため、論
文の内容は本文に記入する。
図や表は、内容が読み取れる程度
の縮小に留める。

R7の郡教育研究実践論文の図
・表・写真の掲載は岐大論文の図
・表・写真掲載に準じるものとす
る)

※なお写真を貼り付ける時は必ず
リサイズして容量が大きくなりす
ぎないように写真を添付する

写真をリサイズして貼っていた
場合、論文本編のファイル
サイズは1M程度以下になりま
す。
3M以上になった場合は写真が
大きなサイズのままで貼られて
いるのでチェックしてリサイズ
して提出する。

<記載例>

- 1 主題設定の理由
- 2 研究仮説
- 3 研究内容
- 4 実践内容
 - ・実践事例とそれに対する分析、解釈を述べる。
- 5 成果と課題
 - ・児童生徒の具体的な姿（検証デー
タ等）から述べる。
- 6 参考文献

※論文作成の骨子は、例なのでこれに順
じていれば論文の内容や執筆者の意
図により変更してもよい。

P2～5は11字×43～50行
×2段で記載する

<講評> (最終頁の最後22字×11行は空白とすること)

岐大論文に提出された際の審査員の
講評欄として使用するために空白と
する。(P6の場合)

令和7年度 揖斐郡教育研究実践論文 審査の観点

揖斐郡教育会

審査の観点	観点の内容
観点① 今日的課題	◎教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。 ● 今日的課題をよく理解し、解決への具体的な方向性をもっているか。 ● 研究課題が明確で、解決のための指導内容や指導方法等の改善事項が明確に示されているか。 ● 生きて働く知識技能、未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性の育成につながる研究実践になっているか。 ● 他の教育活動とのつながりをもったカリキュラムマネジメントの考え方や、ICT活用などの新しい指導方法の工夫がなされているか。
観点② 研究の価値	◎願う児童生徒の姿、指導の意図、指導方法が明確で、日常的な指導・改善に資する汎用性のある研究実践であるか。 ● 確かな理論構築により目標や評価規準等を明確にした上で、実践により、目標が実現されたり、そのための具体的で多様な指導方法が工夫される見通しをもった研究実践になっているか。 ● 指導実践の過程で、児童・生徒のものの見方や考え方等の成長や変容が、数値や具体的な姿で分かりやすく示されているか。 ● 各学校の現場において、日常的な指導・改善に資することができる汎用性のある研究実践であるか。
観点③ 指導・改善	◎教育実践のための理論と実践が機能的に結びつき、児童生徒の成長や変容の姿が根拠にもとづき明確に示された研究実践であるか。 ● 仮説→実践→検証→改善の過程により、継続的・累積的に一貫した研究実践が進められているか。 ● 理論と実践が機能的に結びついた教育活動が行われる共に、理論とそれにもとづく実践の具体的内容がバランスよく記述されているか。 ● つけたい力の確実な定着や課題解決のために、児童生徒が「主体的・対話的・深い学び」に取り組むような工夫された指導の改善がなされているか。 ● 的確で客観的な評価がなされ、評価が次の指導改善に生かされる研究実践になっているか。
観点④ 論述	◎研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、明確な表記で、分かりやすい説得力のある論文であるか。 ● 願う子どもの姿を明確にもち、指導のねらいや指導方法等を明確にして、妥当性がある創造的な研究実践になっているか。 ● 教育研究論文として丁寧で、的確な記述がなされ、論理に一貫性があり、すっきりとわかりやすい論文であるか。 ● 理論や語句の概念規定が論文の中でしっかりと規定されるとともに、誤字、脱字や用語等の誤りがなく、指定の形式に則って書かれているか。

優秀賞論文の概要

(学番順に記載)

東小学校 江崎 綾香 先生	テーマ <国語科> 自分の考えをもち、主体的に取り組む国語の授業づくりを目指して ～単元学習計画の明確化・対話活動の工夫を通して～
本校5年生の児童は、興味があることや物語文に対する関心が高い一方で、自分の意見をもてず、対話活動に参加できないという実態があった。また、自分の意見を伝えること、書くことに苦手さを感じる児童も多く見られた。そこで、一人一人が問いをもち、見通しをもって学ぶことができる単元学習計画の明確化【研究内容1】や、学習用グループを活用した対話活動の工夫【研究内容2】をすれば、一人一人に確かな学びがある国語の授業になるという仮説を立てた。 実践を通して、自分の問いに関わる内容をどこで学習するのか見通しをもって取り組む児童が増えた。また、学力による同質、異質グループを活用することで、自分の考えを教える児童、他者の考えを聞いて意見を深める児童、新たなことに気付く児童などが増え、主体的に取り組むことができるようになってきた。さらに、自分の考えを言語化する機会が増えたことで自信をもって発言する児童が増えてきた。以上のことから、研究主題に迫ることができたと考える。	

東小学校 杉山 貴紀 先生	テーマ <国語科> 言葉に寄り添い、国語を楽しむ児童の育成 ～国語科として付けさせたい力を明確にした授業実践～
今日的な課題や本校の学校課題から、豊かな語彙を育み、それを使おうとする児童を育成することが、学力の向上につながると仮定した。そのためには、授業者が単元のねらいや役割を理解し、単位時間ごとにどんな力が付けばよいかを明確にすることが必要であると考え、本実践を行った。研究内容1では、単元で付けるべき力を明確にし、3つの資質・能力に対して各単位時間がどのような役割を担っているかが分かる単元構想図を作成した。研究内容2では、国語科の授業以外でも語彙を増やす活動を考え、家庭学習で行っている音読のやり方を工夫したり、廊下掲示の活用の仕方を工夫したりする実践を行った。本実践を通して、表現に着目して読み取りをしていると自覚する児童が大きく増えた。同時に、「国語が好き」「国語は大切」と考える児童も増えた。これらの結果から本実践が、語彙力を高め、それを活用して読み取る力を伸ばすことに一定の成果があるものと考ええる。また、国語を楽しむ児童の育成に有効であるとも考える。	

揖斐川中学校 秋江 諒摩 先生	テーマ <外国語科> 中学校における英語発音指導の在り方 ～AI・ICT アプリケーションを活用した英語発音の一斉指導・個別指導の実践を通して～
事実として、「発音指導は重要である」と考えている英語教師が大多数いるにも関わらず、発音指導の実践には温度差がある。理由としては「時間がない」「指導方法が分からない」ということが挙げられている。また、語彙・文法・読解・作文に比べると、どうしても発音指導は優先順位が低くなりがちであると感じている。しかし、言葉の根幹を成すのは音であり、言語学習において音を学ばなくてはよいはずがない。本論文は、これらの背景から敬遠されがちな発音指導を少しでも取り入れ、生徒の発音向上に繋げることができないか考え、取り組んできた実践をまとめたものである。効果的な英語発音指導のツールとして主にICT機器を活用した。AIによる発音分析機能は生徒が苦手とする音を明確にするという点で一定の効果が見られたものの、生徒が自身の発音を改善するために使うものとしては限界があることが分かった。教師は分析の結果を踏まえてアクティビティを仕組んだり、個別にフィードバックをしたりする必要がある。そのためには教師自身が日頃から英語音声に興味・関心をもち、学び、日々の実践に落とし込むことが生徒の英語力向上に繋がると考えている。	

揖斐川中学校 松浦 亮太 先生	テーマ <学校経営> チーム揖斐川で向かう「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実
本研究は、「目指す学校像」を目指し、中教審答申で示された「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実を図ることを目的としている。 研究内容1は、「日常的に学び合う授業改善研修の企画・工夫」として、きらめき一番フォトコンテストの実践を通して、職員一人ひとりの教科指導力の向上を試みた。同時に、校内研究への接続や、生徒への目指す学習姿勢の共有等へと発展させた。研究内容2は、「職員のニーズに沿ったコラボ研修の企画・工夫」として、職員間で協力しながら5つの実践に取り組んだ。合唱指導を学級経営に落とし込む研修やケーススタディを織り交ぜた進路指導・特別支援教育に関する研修、実効性の高いLGBTQに関する人権研修など、職員が適宜求めている内容を中心に取り組んだ。日常的に理論と実践を往還し、かつ効果的・効率的な研修を位置づけ、実施したことで職員一人ひとりが互いに学び合ったり、補完し合ったりする姿を生み出すことができた。	

揖斐郡教育研究実践論ライブラリー

(郡教育研修センターHPに掲載)

令和6年度揖斐郡教育研究実践論文ライブラリー

	令和6年度 デジタル版	揖斐郡教育研究実践論文集
➡	郡教育研究実践論文集 目次	
➡	郡教育研究実践論文集 講評	
➡	郡教育研究実践論文集 募集要項	
➡	郡教育研究実践論文集 審査の観点	
➡	郡教育研究実践論文集 応募状況	
➡	郡教育研究実践論文集 審査結果一覧	
➡	郡教育研究実践論文 概要（優秀賞・入選・佳作）	
➡	郡教育研究実践論文 優秀賞 東小 江崎 綾香 先生	
➡	郡教育研究実践論文 優秀賞 東小 杉山 貴紀 先生	
➡	郡教育研究実践論文 優秀賞 揖斐川中 秋江 諒摩 先生	
➡	郡教育研究実践論文 優秀賞 揖斐川中 松浦 亮太 先生	
➡	郡教育会研修総会	
➡	郡教育会研究総会でのプレゼン発表	
➡	郡教育会研修総会でのシンポジウム発表	

- 郡センターHP の実践論文ライブラリーには令和6年度の実践論文ライブラリーに加えて令和5年度、令和4年度の実践論文ライブラリーもアップしてありますので、実践論文執筆の参考にしてください。
- 各校には毎年、郡教育実践論文集の冊子も配付してあります。
- また岐阜大学教育学部同窓会より「岐阜県小中学校 入賞論文集」が毎年各校に送付されており、県の優秀論文が掲載されています。

令和7年度揖斐郡教育研究実践論文にかかわる日程



本日 3月12日(水) R7郡教育研究実践論文執筆者講習会
6月 岐大論文募集要項発表→正式な令和7年度揖斐郡実践論文募集要項を送付 実践論文の正式な応募

応募票の提出・・・取り組む教科・領域、テーマの報告

実践論文提出〆切 令和7年11月19日(水)

一次審査 令和7年11月末～12月はじめ頃

二次審査 令和7年12月上旬

実践論文の入賞者は12月中に発表→優秀賞受賞者は1月21日の揖斐郡教育会研修総会でプレゼン・シンポジウム発表

最初に令和7年度郡教育実践論文のスケジュールについてお話します。

本日 3月12日(水) R7郡教育研究実践論文執筆者講習会を行っています。
それを受けて

6月に岐大論文募集要項が発表されますので、正式な令和7年度揖斐郡実践論文募集要項を送付し、実践論文の正式な応募をしていただきます。

その際には取り組む教科・領域、テーマの報告を含めた応募票を提出していただきます。

実践論文提出〆切は令和7年11月19日(水)で、

一次審査を11月末～12月はじめ頃に

二次審査を12月上旬に行います。

また、実践論文の入賞者の発表は12月中にリーフレットの発送をもって行い、優秀賞受賞者は1月21日の揖斐郡教育会研修総会でプレゼン・シンポジウム発表をしていただきます。

揖斐郡教育会研修総会 令和8年1月21日(水)
優秀賞受賞者によるプレゼン発表・シンポジウム発表
(リアルタイムオンラインで)

優秀賞受賞者の先生には二次審査会以降に校長先生を通じて発表の依頼をします。

郡の優秀作品より岐大論文に優秀賞候補・新人賞候補の作品を応募

新人賞に該当するのは教職経験6年以内 6年以内でも優秀賞候補で応募することがあります。

優秀賞論文は本編を、入選・佳作の作品は概要を原則的に実践論文集の冊子及びセンターホームページの実践論文ライブラリーに掲載します。 あらかじめ、ご了解ください。

揖斐郡教育会研修総会は令和8年1月21日(水)に行い

優秀賞受賞者によるプレゼン発表・シンポジウム発表をリアルタイムオンラインで行います。優秀賞受賞者の先生には二次審査会以降に校長先生を通じて発表の依頼をします。

郡の優秀作品より岐大論文に優秀賞候補・新人賞候補の作品を応募します。新人賞に該当するのは教職経験6年以内 6年以内でも優秀賞候補で応募することがあります。

優秀賞論文は本編を、入選・佳作の作品は概要を原則的に実践論文集の冊子及びセンターホームページの実践論文ライブラリーに掲載します。
あらかじめ、ご了解ください。

郡教育研究実践論文の様式（１）

- 1 論文は現代仮名遣いで書かれた日本語とし、MS明朝体で記述する。
(見出しは、MSゴシック体)論文の冒頭に「研究主題(副主題)、所属学校名、職名、著者名」を46字×5行以内・1段で書き、上下に二重線を引く。
- 2 編集のできるワード・エクセル等のデータで送付。PDFは不可 岐大論文、論文集の作成の際に校正等が必要になるため)、A4で6ページとする
- 3 1ページ目については、概要を46字×10行で述べ、枠線で囲む。
その中にキーワード(4から6語)を入れる。
1枚目の本文は22字×28行程度×2段で記載し、ページ全体で最大50行に収める。
概要の中のキー・ワードは太字で表記する。
- 4 2ページ目から6ページ目については、論文は、
A4版用紙 縦置き・横書きで1頁2段組
(22字×43行~50行×2段)とするが、6ページ目の最後22字×11行は空白とする。
- 5 余白は、上下左右 各25mmとする。

R6度の要項をもとにしています。
詳しくは送付した＜参考資料＞様式をご覧ください。6月の二次募集の時に一部変更になる場合があります。

6月にR6の正式要項を送付します

実践論文の様式は本スライドの通りです。

詳しくは配付してあります研修会資料の2～4ページの実施要項、5、6ページのレイアウトに関する説明を参照してください。

なお研修会資料はR6度の要項をもとにしています。
正式な要項・様式は6月の二次募集の時に送付します。一部変更になる場合がありますが4月より実践論文の執筆やそれを受けての実践に取り組まれると思いますので、参考資料として送付しています。

郡教育研究実践実践論文の様式（２）

- 6 図（写真を含む）・表は図 1、表 1 などと表記し、図表が唐突に現れないようにする。 図表は全 6 ページで 6 枚程度
※写真・図表の部分が変更になっているので要項で確認した上で論文を作成してください。
- 7 写真・図表は画像ソフトでリサイズして貼ってください。論文のサイズは 2 MG 以下に
デジカメ・スマホ等で撮った 写真を貼って縮めるのは×
- 9 本編のみを提出し、それ以外の資料は添付しない。
デジタルデータ（WORD）でメール送付（ページ数はいれない）
- 10 参考文献等がある場合は、論文の最後に、年代順で一括掲載する。
- 11 写真等は児童・生徒が特定されないよう留意する。
- 12 提出された論文は掲載承諾はとらせていただきますが、原則的に優秀賞の場合は論文本編が、入選・佳作の場合は概要が実践論文集及びセンターホームページ（PW付）に掲載されることを踏まえて記載してください。

本年度の郡教育研究実践論文では写真・図表の部分が変更になっていますので、要項・様式を確認した上で論文を作成してください。

また写真・図表は画像ソフトでリサイズして貼ってください。リサイズした場合には論文のサイズは 2 MG 以下になると思います。デジカメ・スマホ等で撮った写真を貼って縮めるのはリサイズになりませんので提出前に論文のサイズを確認してください。

揖斐郡の論文募集の際にも岐大論文に準じて、本編のみを提出し、それ以外の資料の提出は必要ありません。ワードで作成したデジタルデータをメールで送付してください。ページ数はいれないでください。

写真等は児童・生徒が特定されないよう留意してください。

提出された論文は掲載承諾はとらせていただきますが、原則的に優秀賞の場合は論文本編が、入選・佳作の場合は概要が実践論文集及びセンターホームページ（PW付）に掲載されることを踏まえて記載してください。

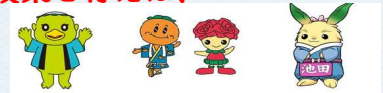
実践論文の書き方(1) 研究主題・研究仮説・研究内容

研究主題・研究仮説・研究内容の一貫性 **くつきり・すつきり** = 理論と実践の一体化

- ①研究主題 **社会で生きて働く「確かな言語の力」をもった生徒の育成**
研究の目的(ゴール) **FOR**
②サブテーマ **～ゲーム性・競争原理・生成AIの活用を取り入れた国語の授業を通して～**
ゴールに至る方法や実践 BY

シャープな切り口 **できるだけ絞りこんで具体的に研究主題を立てる**

- ③研究仮説→ ②の方法をとれば、①の力をもった児童生徒を育てることができる
**ゲーム性・競争原理・生成AIの活用を取り入れた国語の授業を行えば、
社会で生きて働く「確かな言語の力」もった生徒が育つ**



- ④研究内容 この場合

研究内容 (1) **ゲーム性を取り入れた国語の授業**
研究内容 (2) **競争原理を取り入れた国語の授業**
研究内容 (3) **生成AIを活用した国語の授業**

今回の一次応募では研究主題の未定の先生もみえました。6月の2次応募の時には研究テーマの報告が必要になります。その際の参考になるように研究主題の立て方、論文執筆の仕方について説明します。

研究主題の前は研究の目的(ゴール)です。例えば

社会で生きて働く「確かな言語の力」もった生徒の育成
のように育てたい力や児童生徒の姿を書きます。またその際には主題設定の理由や概要で「社会」「生きて働く」「確かな言語の力」等の定義をする必要があります。

例えば「確かな言語の力」は語句・語彙量、役に立つ知識や表現力、多様な発信方法、目的・相手・方法・場・評価の5つの言語意識、言語操作力・関係把握力などのように定義します。

サブテーマははゴールに至る方法です。

～ゲーム性・競争原理・生成AIの活用を取り入れた国語の授業を通して～
のようにシャープな切り口でできるだけ絞り込んで書きます。

研究仮説はサブテーマの方法をとれば、主題の力をもった児童生徒を育てることができると書きます。ここで上げた主題の場合、研究仮説は
ゲーム性・競争原理・生成AIの活用を取り入れた国語の授業を行えば、
社会で生きて働く「確かな言語の力」もった生徒が育つ となります。

研究内容にはサブテーマの内容を具体的にした授業や指導での工夫や指導の柱を書きます。

この場合

研究内容 (1) **ゲーム性を取り入れた国語の授業**

研究内容（2）競争原理を取り入れた国語の授業
研究内容（3）生成AIを活用した国語の授業

となります。

実践論文の書き方(2)・・・具体的実践・成果と課題 主題設定の理由・概要

⑤ 具体的実践

「研究内容の項目に従って行った実践」を具体的に記載する

研究理論と教育実践の一体化

具体的とは・・・児童生徒の姿や数値で変容や成果が明確にされている

「確かな言語の力がついた」という証拠・根拠・裏付けを示す

エビデンス

⑥ 成果と課題 成果をたくさん書く 課題は改善の方向を示す形で書く

■主題設定の理由 自分の論文の値打ちを強くアピール

- ・この論文はこんなすごい値打ちがあり、斬新である。
- ・この論文は汎用性・再現性が高く、みんな役に立つ。
- ・この論文には目指す姿と現実とのずれを埋める有効な手立てが示してある。

■概要（論文の論旨をキーワードを意識しながら簡潔にまとめる） 論文の記載をする時に必ずキーワードを太字にしてください。

具体的実践は

「研究内容の項目に従って行った実践」を具体的に記載します。そうすることで研究理論と教育実践の一体化

具体的とは児童生徒の姿や数値で変容や成果が明確にされていることで、先の論文の場合、「確かな言語の力がついた」という証拠・根拠・裏付けを示すエビデンスが必要です。

成果と課題では成果をたくさん書いてください。また課題は改善の方向を示す形で書いてください。

主題設定の理由はさきほどに述べたように、自分の論文の値打ちを強くアピールしてください。

- ・この論文はこんなすごい値打ちがあり、斬新である。
- ・この論文は汎用性・再現性が高く、みんな役に立つ。
- ・この論文には目指す姿と現実とのずれを埋める有効な手立てが示してある。

概要は論文の論旨をキーワードを意識しながら簡潔にまとめます。論文の記載をする時に必ずキーワードを太字にしてください。

郡教育研究実践論文の審査の観点

- 観点①今日的課題** ◎教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- 観点②研究の価値** ◎願う児童生徒の姿、指導の意図、指導方法が明確で、日常的な指導・改善に資することができるか。
- 観点③指導・改善** ◎教育実践のための理論と実践が機能的に結びつき、児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- 観点④論述** ◎研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、明確な表記で、分かりやすい説得力のある論文であるか。

詳しくは 「令和7年度 郡教育実践論文 審査の観点」 参照

郡教育研究実践論文の審査の観点はそのまま実践論文を執筆する時の視点になります。

本日の講話はこの視点から行っています。
確認します。

観点①今日的課題
◎教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。

観点②研究の価値
◎願う児童生徒の姿、指導の意図、指導方法が明確で、日常的な指導・改善に資することができるか。

観点③指導・改善
◎教育実践のための理論と実践が機能的に結びつき、児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。

観点④論述
◎研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、明確な表記で、分かりやすい説得力のある論文であるか。

詳しくは資料集7ページの 「令和7年度 郡教育実践論文 審査の観点」 参照してください。また、実践論文の執筆や実践にあたっては常にこの視点にたちもどり自己の論文や実践をみつめてください。

最後に

実践論文を書く時の10のポイント

(実践論文にあるとよいもの)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1) <u>確かな教育信念や理論</u> | 6) <u>継続的な積み上げ</u> |
| 2) <u>情熱・児童生徒への愛情</u> | 7) <u>理論と実践のつながり</u> |
| 3) <u>指導の工夫の独創性</u> | 8) <u>説得力・分かりやすさ</u> |
| 4) <u>汎用性 (だれでもできる)</u> | 9) <u>児童・生徒の成長</u> |
| 5) <u>シャープな切り口</u> | 10) <u>アピールポイント</u> |

最後に実践論文にあるとよい10のポイントを確認します。

- ①確かな教育信念や理論
- ②情熱・児童生徒への愛情
- ③指導の工夫の独創性
- ④汎用性 (だれでもできる)
- ⑤シャープな切り口
- ⑥継続的な積み上げ
- ⑦理論と実践のつながり
- ⑧説得力・分かりやすさ
- ⑨児童・生徒の成長
- ⑩アピールポイント

です。この10のポイントから自分の実践論文を見つめていただくようお願い致します。